

地域とともに歩む学校づくり

学校は地域に開かれるとともに、保護者や地域住民に信頼される学校運営をする必要があります。本市においては、平成16年度より、すべての市立学校で学校評議員制度を導入し、校長は評議員の意見を参考にしながら学校運営を実施してきました。現在、幼稚園においては、学校評議員を、市立小・中・高等学校においては、コミュニティ・スクールとして学校運営協議会をそれぞれ設置し、地域とともに学校運営について考え歩む取組を進めています。

学校評価に関しては、平成19年6月の学校教育法、同年10月の学校教育法施行規則の改正により、自己評価・学校関係者評価の実施・公表、評価結果の設置者への報告に関する規定が設けられています。このことを受けて、各学校園では、教育活動や学校運営の状況について評価を行い、ホームページなどを通じて、評価結果の公表をするとともに、明らかとなった課題についての改善を図っています。

ここに、令和5年度の各学校園における「学校評議員の活用」や「学校評価の実施」の様子を「地域とともに歩む学校づくり」としてまとめました。各学校園では、この報告書を参考にするとともに、学校園・家庭・地域が連携・協力しながら、よりよい学校運営に向けて取組を実施し、開かれた学校、地域から信頼される学校となるよう努めてまいります。

令和6年12月
奈良市教育委員会

内容

1 学校評議員制度の活用（幼稚園のみ）

【学校評議員役職の内訳】	2
【園長が学校評議員に求めた意見の種類】	2
【学校評議員からの意見を教職員全体で共有する仕組み】	3
【学校評議員の方々からのご意見が教育活動に活かされた例】	3

2 学校評価の実施

【学校評価を進める仕組みの有無】	4
【評価結果に基づく改善方策の検討を行う体制】	4
【外部アンケート（児童生徒・保護者等を対象としたアンケート）の実施割合】	4
【学校関係者評価について】	4
【学校評価の結果の公表について】	5

3 学校評価の実際について

【各校が設定した重点的な目標（評価項目）】	6
【学校評価結果から指摘できる、学校園が抱える学校園経営上の課題】	7
【学校評価の結果から見てきた課題に対する対応】	8
【学校評価結果から指摘できる、学校園が抱える学校園経営上の課題の具体的解決策の例】	9

4 学校評価と学校ビジョン

【学校評価結果をうけて、改善しようとしている学校ビジョンの内容】	10
----------------------------------	----

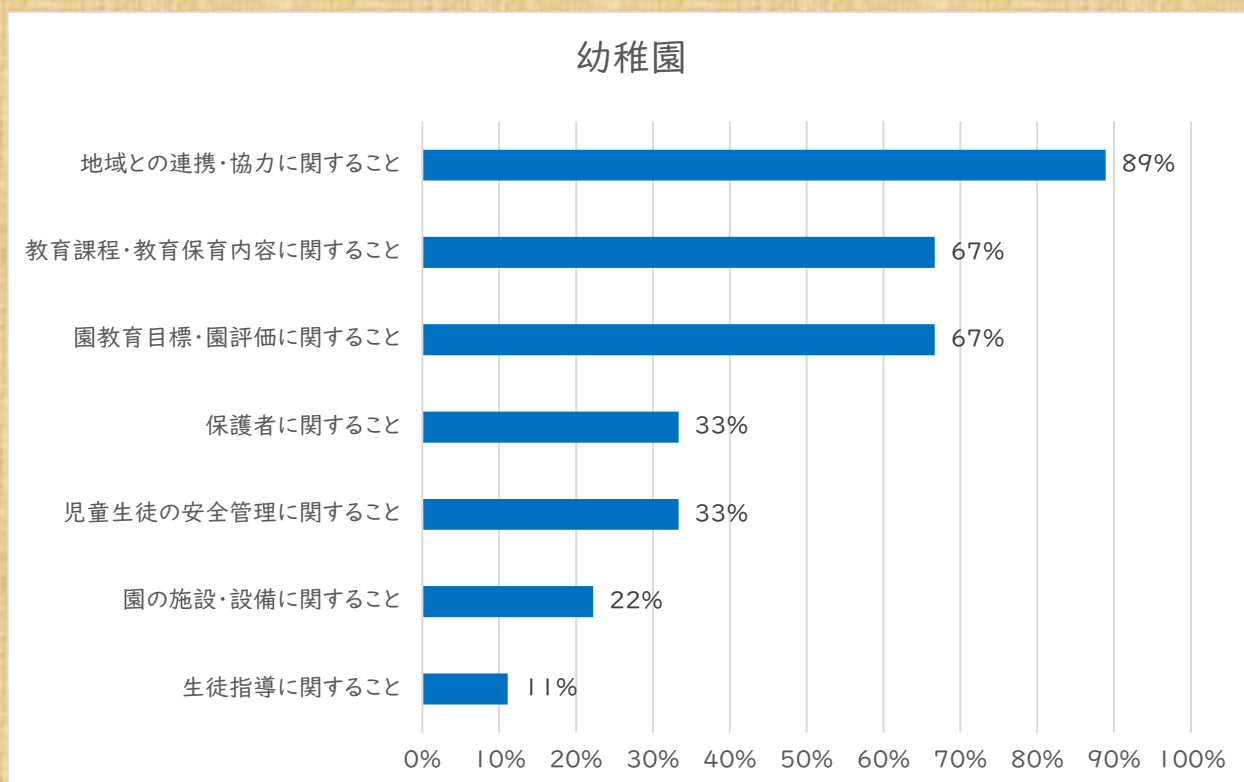
I 学校評議員制度の活用（幼稚園のみ）

【学校評議員 役職の内訳】

役職の内訳	人数
PTA関係	14人
民生関係	6人
自治会関係	4人
各種協議会	2人
少年指導協議会	1人
地域活動関係	1人
社会福祉協議会関係	3人
合計	31人

※小・中・高等学校では、学校評議員に代わって学校運営協議会を設置しています。

【園長が学校評議員に求めた意見の種類】



【学校評議員からの意見を教職員全体で共有する仕組み】

教職員全体で共有する仕組み	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
共有し、対応するシステムがあり、全体及び担当分掌で対応することができている。	65%	59%	85%	93%	92%	78%
共有し、対応するシステムがあるが、十分機能しているとはいえない。あるいは共有できていない。	35%	41%	15%	7%	8%	22%

【学校評議員の方々からのご意見が教育活動に生かされた例】

- 少人数ならではのよさを生かし地域の方々との交流をはかることができた。
- 時代の流れや子ども・保護者の変容に応じた保育内容にしていけることを話し合うことができた。
- 長く続いていた地域の方との行事の持ち方を見直すことができた。
- 広い園庭と自然がたくさんあることが園の特色であると助言いただいたことで、保育内容に体を思い切り動かして取り組む遊びや活動を取り入れる機会を増やすことができた。
- 助言がきっかけで自然と触れ合える環境構成を整えることができた。
- 入園する子が減少していく中、子ども達の成長につながるよう行事等を計画しているが、その中で地域の方々の協力が以前にも増して不可欠になってきていることを伝えることができた。
- 地域に開けた園運営を目指すために園の取り組みを発信することができた。
- 地域の方々が三味線コンサートをしてくださり、子どもにも楽器にも触れさせていただくなど、子ども達の興味に合わせた体験ができた。
- 地域の方に行事等様々な形で園に来ていただき、子ども達と多世代の方々の関わりを増やすことできた。
- 一年間、園に携わっていただき、アンケートに高評価をいただいた。地域の会長職の方々に評議員をしていただいた。
- 地域の方と園の連携の在り方について、ご意見をいただくことができた。
- 地域の方と園児との交流活動の内容を考えていただくことができた。
- 学校評議員があることで園と地域との関係が良い関係で進められた。

園の特色を活かした自然環境での保育教育活動や地域住民との交流など、学校評議員の意見を基に、地域との連携や教育活動が強化されている園があります。

学校評議員の意見を基に、保育教育活動の質向上を目指している園があります。

2 学校評価の実施について

【学校評価を進める仕組みの有無】

学校評価を進める仕組み	幼稚園	小学校	中・高等学校	全体
学校評価を行う校内の委員会を組織している。	56%	87%	91%	84%
学校評価を行う校内の委員会を組織していない。	44%	13%	9%	16%

【学校評価に基づく改善方策の検討を行う体制】

学校評価を進める仕組み	幼稚園	小学校	中・高等学校	全体
全教職員参加の体制で行っている。	56%	61%	50%	57%
主に担当者が行っている。	44%	39%	50%	43%

【外部アンケート(児童生徒・保護者等を対象としたアンケート)の実施割合】

外部アンケートの実施割合	幼稚園	小学校	中・高等学校	全体
年に1回実施	100%	97%	95%	97%
年に2回実施	0%	3%	5%	3%
実施していない	0%	0%	0%	0%

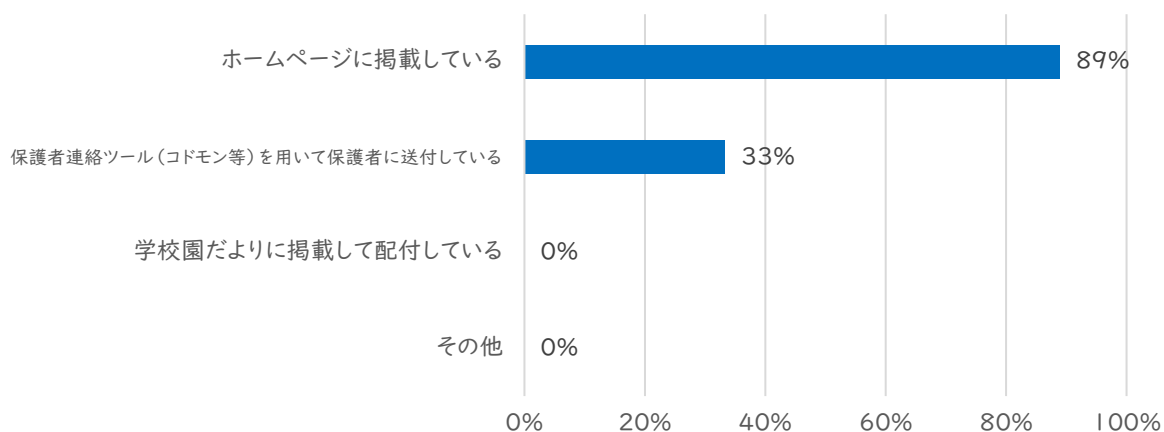
【学校関係者評価について】

	幼稚園	小学校	中・高等学校	全体
評価者に学校の自己評価の結果と課題に対する改善策を示している。	56%	53%	45%	51%
学校の教育活動の取組を評価者に説明するとともに、普段の教育活動や学校行事を参観する機会を設けている。	56%	66%	77%	68%
評価はアンケート形式で回答を求めている。	44%	39%	27%	36%
評価者の意見を聞く場を設定し、学校の教職員と直接、意見交換している。	33%	61%	50%	54%

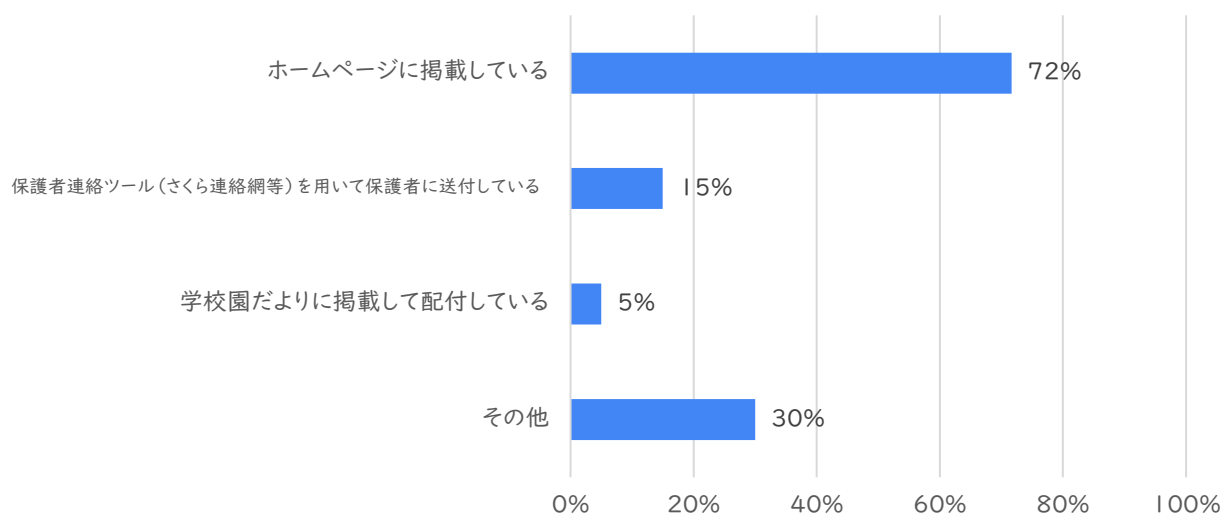
全ての学校園において、外部アンケートを年に1回以上実施しています。
87%の小学校、91%の中・高等学校において、学校評価を行う校内の委員会を組織しています。

【学校評価の結果の公表について】

幼稚園



小学校・中学校・高等学校

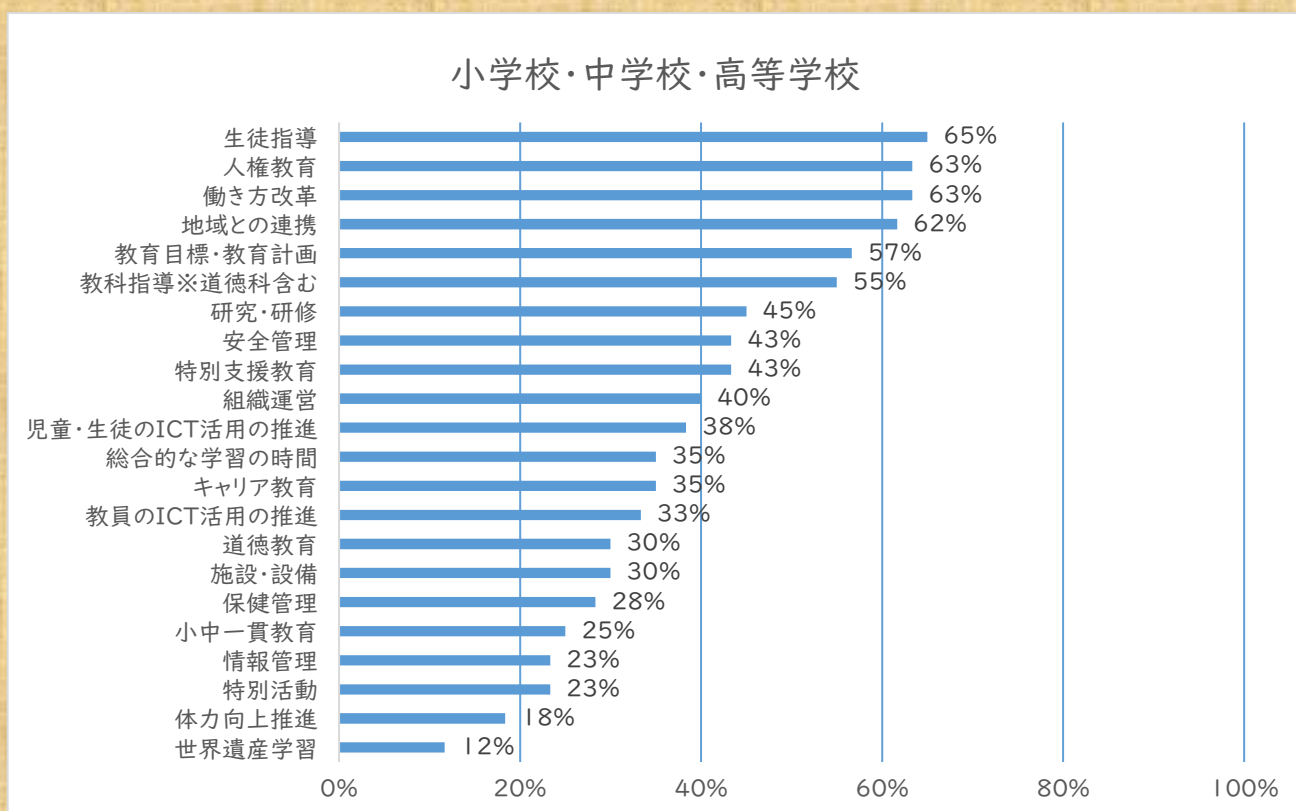
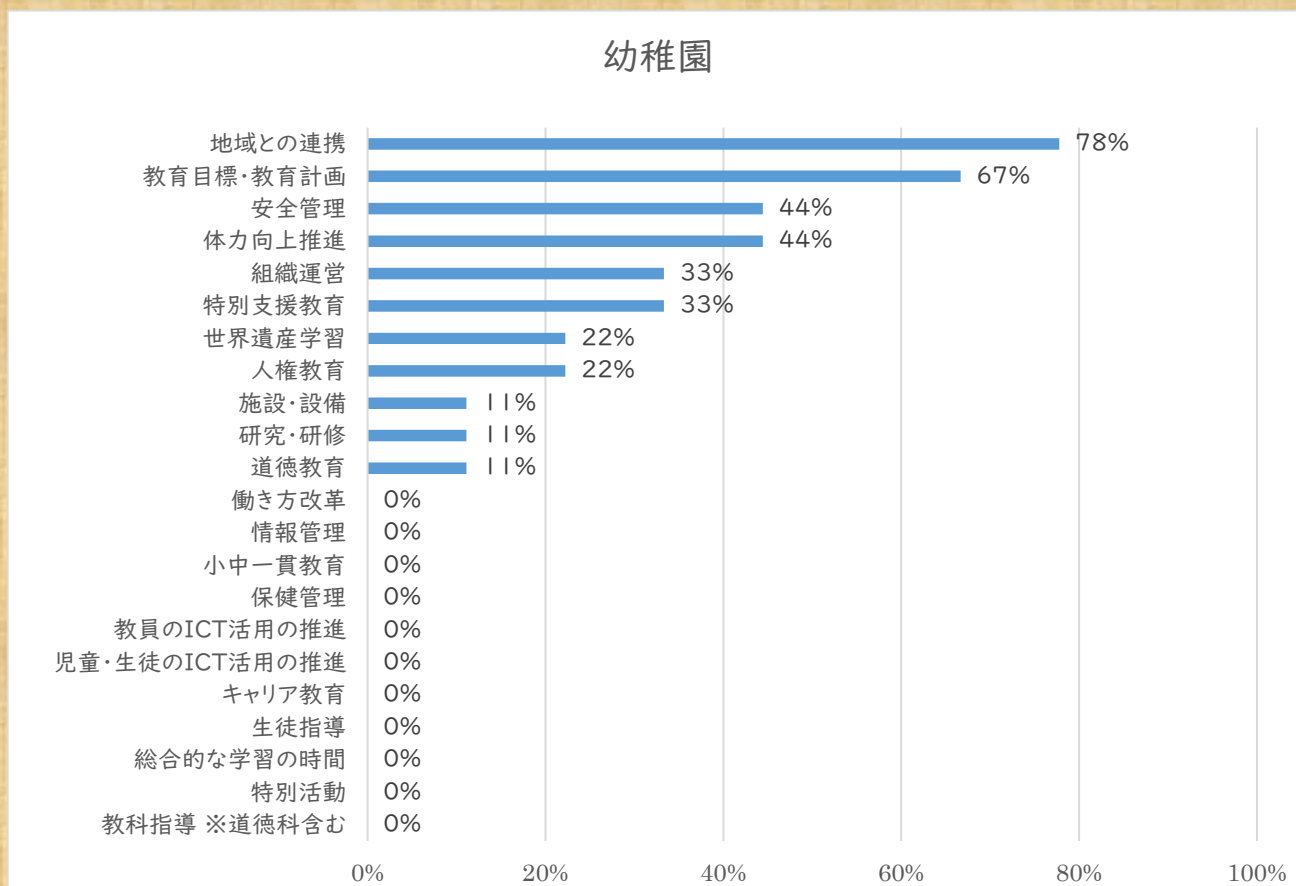


幼稚園においては、89%、小学校、中学校、高等学校においては72%と、学校評価結果の公表手段として学校ホームページが用いられることが最も多い状況です。

また、保護者連絡ツールでの公表も一定数行われています。

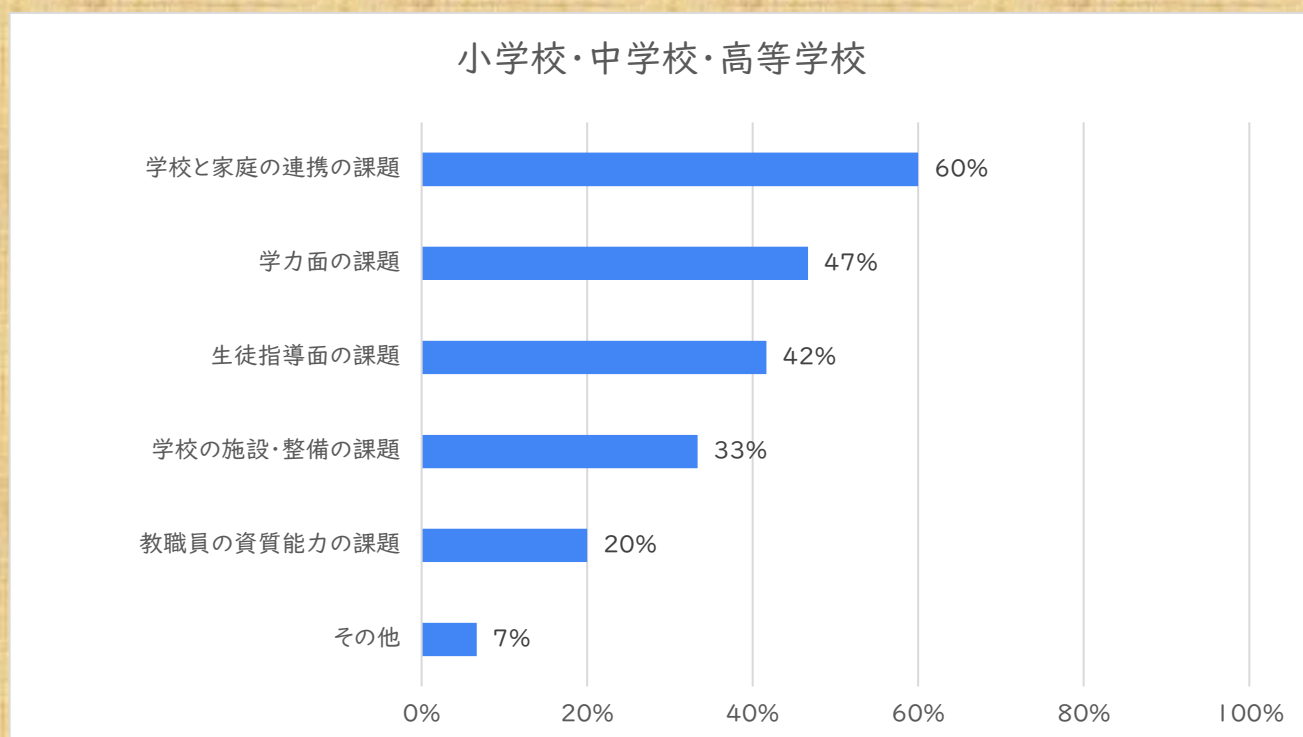
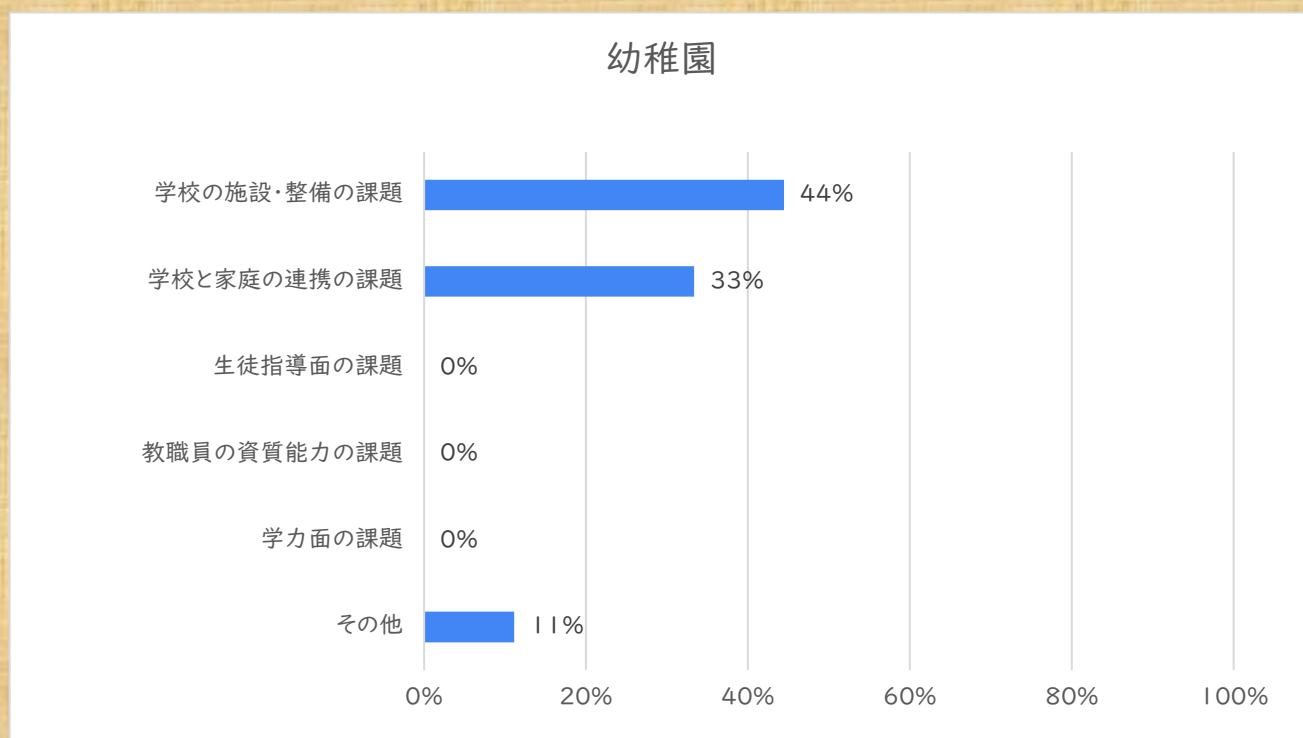
3 学校評価の実際について

【各校が設定した重点的な目標(評価項目)】



学校園に共通して重点的な目標となっている項目としては、「地域との連携」(幼稚園 78%、小学校、中学校、高等学校 62%)や「教育目標・教育計画」(幼稚園 67%、小学校、中学校、高等学校 57%)が挙げられます。発達段階や各校の実情に合わせて、重点的な目標が設定されています。

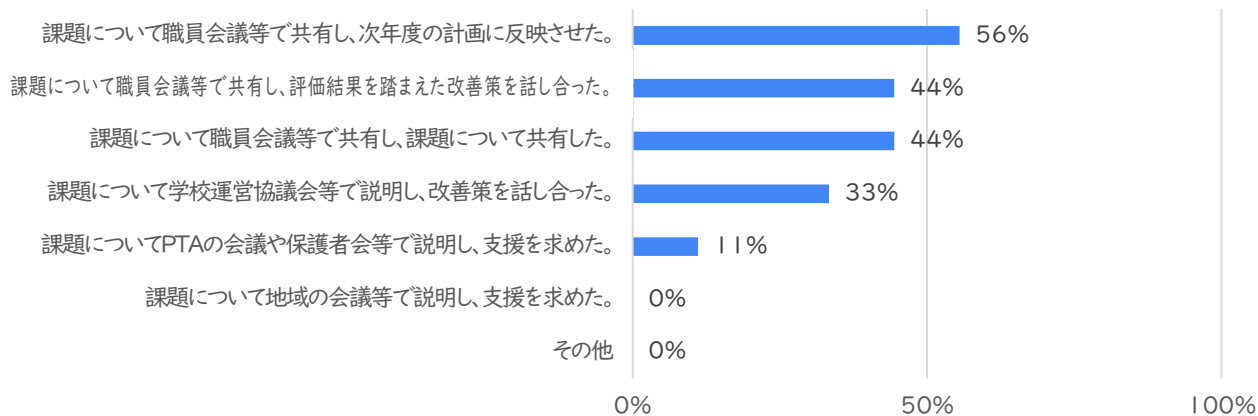
【学校評価結果から指摘できる、学校園が抱える学校園経営上の課題】



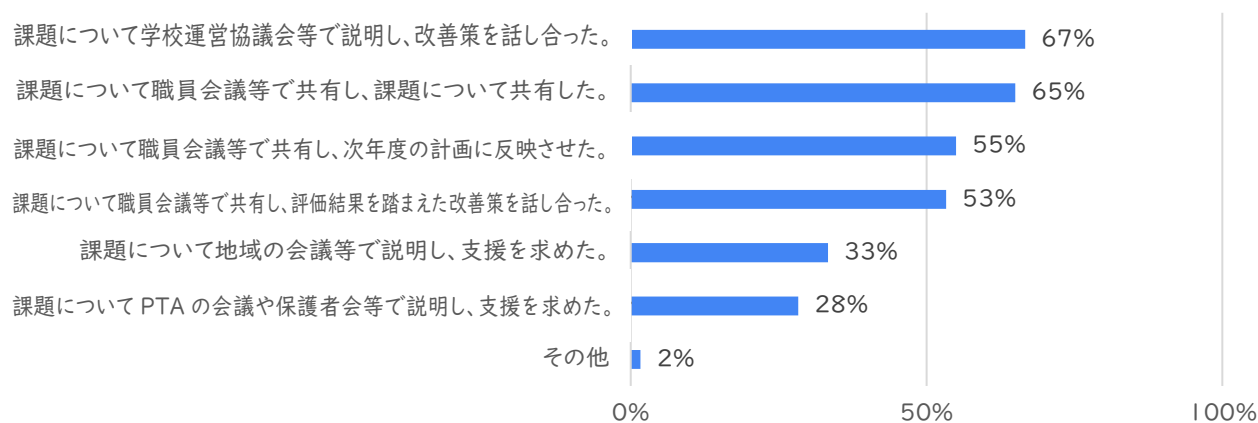
「学校と家庭の連携」は、60%の学校が学校園経営上の抱える課題であるという結果が出ました。

【学校評価の結果から見えてきた課題に対する対応】

幼稚園



小学校・中学校・高等学校



67%の学校において、学校評価の結果を踏まえ、学校運営協議会等で説明し、改善策を話し合っているという結果が出ました。

56%の幼稚園において、課題について職員会議等で共有し、次年度の計画に反映させているという結果が出ました。

【学校評価結果から指摘できる、学校園が抱える学校園経営上の課題の具体的解決策の例】

〔学校園と家庭の連携に関すること〕

- 学校評価アンケートの結果から家庭学習に対する意見を取り上げ、それを運営委員会だよりに掲載することで、全保護者に学校が行っている家庭学習課題等の内容を周知する。
- 地域の方々に図書ボランティアや校外学習のオリエンテーリングのガイドとして協力してもらう。
- 地域の方々と保護者の方がともに学べる講演会を開催する。
- 教員の働き方改革と学校が対応すべきことについて、保護者への周知や啓発が課題であることを一致させ、今後に生かしていく。
- 教職員の負担軽減を保護者に説明する方法について意見交換を行う。
- 校種間連携で、他校種へ積極的に働きかける必要があるという意見があったため、他校種の教師同士で連絡を密にする。
- 園児、保護者、職員の密なコミュニケーションを活かした丁寧な保育教育活動を引き続き行う。

〔施設・整備に関すること〕

- 子ども用の更衣室を設置する。
- 教室等の環境整備を行う。
- 併設の閉園した幼稚園の跡地の活用について話し合う。
- 登下校のより一層の安全を図るため、校地隣接場所の除草整備を行う。
- 学校施設・設備の補修等について、地域からも行政に要望を上げるようにする。

〔生徒指導に関すること〕

- 登下校のマナーについて、継続的に指導を行う。
- 挨拶活動のさらなる推進を行う。
- 生活習慣を整えるための取り組みを行う。
- 登下校の見守りボランティアに協力してもらう。
- 地域の方々と協力して、不登校児童生徒の保護者が集まることのできる会を実施する。

〔学力に関すること〕

- 研究授業を含め教員の授業力向上に力を入れる。
- 地域学習について、より一層の推進を行う。
- 分かりやすい授業をつくる方法についての研修を行う。
- 公開研究授業などにも地域の方に参加してもらう。

4 学校評価と学校ビジョン

【学校評価結果をうけて、改善しようとしている学校ビジョンの内容】

- 地域・保護者等とのより一層の連携を推進していく。
- 学習意欲の向上及び家庭学習への関心を高めていく。
- 保護者、地域の方が当事者意識をもてるように取組を進めていく。
- 児童生徒がもつ特性を理解し、個に応じた対応の確立を進めていく。児童生徒を今以上に複数のスタッフで見守っていく体制をより強固にしていく。
- 学校の活動をよりわかりやすく情報提供をする必要性を感じたため発信力を高めていく。
- より積極的に地域との関わりをもち、地域の中の学校として連携していく部分をより増やしていく。
- 学力向上に向けて、教員の授業力のより一層の向上、粘り強い家庭との連携により家庭学習のさらなる充実に取り組んでいく。
- 学校・保護者の情報共有をよりよいものにするために話し合う場をさらに多く設定する。
- 「読書活動の推進」を継続する。
- 取組の重点に「ICTを活用した授業改善及び授業研究の推進」を盛り込む。
- 生徒指導提要に沿った生徒支援、特別支援教育を推進する。
- 部活動の下校時間を早めるなど、働き方改革を推進する。
- 学校からの情報提供について、ホームページや学年だより等を充実させるように努める。
- 生徒の主体性を引き出すことを主眼に教育活動をすすめていく。
- 家庭学習や読書推進において、PTA や地域との連携・支援をいただき活動を強化する。
- 複数の目で子どもを見守り、関わる体制づくりを推進する。
- 子どもが主体となる授業づくりや行事を進めていくため、先生方が自主的に参加する研究チームを発足させる。
- 現学校教育ビジョンの構成や骨組み等は基本的に維持し、教育環境や社会情勢の変化を踏まえ内容の見直しを検討する。
- 教職員のワークライフバランスに留意しつつ学校ビジョンや重点目標の設定に取り組む。
- 今後の小中一貫教育のあり方を見直す。
- 異学年・異校種での交流等の推進をしていく。
- 部活動の地域移行に関しての情報発信や取組を進める。
- 人権意識の醸成の観点から児童生徒の実態や課題を教師や保護者、地域と共有し方向性を一緒に考え、取り組む。
- 低学年から本に親しむことを重点目標として学校ビジョンの中に盛り込む。
- 生徒一人ひとりがもつ力やよさを存分に発揮できる場・集団の在り方を追及し、よりよい人間関係の構築を図るために、縦割り活動の強化に重点を置く。
- 保護者・児童が学校に悩み事などを相談しやすい体制を構築する。